

# 宗谷

宗谷教職員組合 「宗谷情報」 No. 4 平成28年5月23日発行  
発行責任者：高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館  
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484  
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org



## 特集 民主的學校づくりと学校職員人事評価制度① 目標を考えるってどうするの？

学校職員人事評価制度がスタートしています。要領では「四月～五月で業績評価の目標を設定する」となっています。みなさんの学校では、どのような状況でしょうか。「いざ、シートに書く」となるか、「あれっ？」と不安になることもあるはず。今回は民主的學校づくりの観点で評価シートとの向き合い方を考えてみましょう。

### 「自己目標」をどうやって立てるの？

四月～五月にかけて、自己目標を立てることになっている「業績評価」では、「学校職員の自己目標の設定の目安としても活用できるように、評価項目ごとに『評価に当たっての着眼点』及び『主な行動例』が示されています。

一方で、現実の学校現場での私たちの仕事は「民主的學校づくり」の考え方もとで、たくさん計画や会議があつて、自分だけじゃなくまわりの先生と力合わせをしながら学校が動いています。

業績評価の自己目標を立てる際には、自分たちで考えた学年経営案・学級経営案や、「節」ごとに重視しよう」と学校で確かめ合っている内容などを参考にすることもできるでしょう。多人数で学年部会を組んでいるような大きな学校では、率直に「自己目標を立てること」について交流し合うということもあるでしょう。大切なのは、一人一人が不安や「この

#### 業績評価の「主な行動例」:

#### 教諭・助教諭・講師（特別支援学校以外）の場合

職務分類	評価に当たっての着眼点	主な行動例
学級指導	教育成果 工夫改善 正確性・迅速性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材や指導方法を工夫し、児童生徒の学習への興味・関心を高めた。</li> <li>指導計画に基づき、教材指導の目標を達成した。</li> <li>学習指導を通して、学校の教育目標や経営方針、重点などの実現に努めた。</li> <li>学校行事、児童生徒会活動等の指導において、自らの役割を果たした。</li> </ul>
生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の個性を伸ばし、自主性や実践的な態度を育成した。</li> <li>活動内容や指導方法を工夫し、児童生徒の能力や特性を伸ばさせた。</li> <li>児童生徒の特性を理解した適切な指導を行い、信頼関係を構築することができた。</li> </ul>
いじめ対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳や学級（ホームルーム）活動、児童生徒会活動等において、いじめの問題とのかかわりで適切な指導を行った。</li> <li>いじめを積極的に認知し、情報収集等を通じて事実関係の把握を正確かつ迅速に行い、事実を隠蔽することなく的確に対応した。</li> <li>いじめが解決したとみられる場合でも、継続して十分な注意を払い、必要な指導を行った。</li> </ul>
校務分掌等		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営や校務分掌上の課題に取り組むなど、学校の教育目標や経営方針、重点などの達成に向け、自らの役割を果たした。</li> <li>新たな課題や緊急な事態にも的確な対応ができた。</li> <li>職員間での相互理解や、必要な情報収集、共有化に努めた。</li> </ul>

※実施要項で挙げている「既存の取り組み」との関連  
小・中学校における学級経営案、中学校・高等学校における年間指導計画、特別支援学校における個別支援計画、学年、生徒指導、校務分掌等における年間計画

制度のことがわからなくて」という疑問を持ったまま書かないということ

### 自己目標設定の疑問あれこれ

先生方との協力・協同の観点を大切に書こうとした際に、「どのように書くか」という、書きぶりでも疑問に直面します。要領やQ&Aを参考にふたつの例で考えてみましょう。

#### ①数値目標を定めるべきかどうか

P D C Aサイクルが導入されて以来、数値的に物事を示すことが一般的になっています。学校職員人事評価制度では、Q & Aで次のようにされています。

教育の成果をすべて数値で示すことは難しいものと考えておりますが、個々の学校職員が自己目標を設定する際に、自ら数値で目標を示すこともあるものと考えております。

つまり、「私たち（評価される側）が自己目標を設定するうえで自主的に数値を用いるなら否定しない。道教委や管理職から数値を用いることを指示されることはない」ということがこの解答から伝わってきます。

教育の営みにおいて、例えば「テストの点数を●点以上にする」「不登校をゼロにする」「毎日子どもへの声掛けを90%以上にする」などの数値的目標を置いた場合、教師の側に「やらなきゃいけない」という強迫的な思いが生まれたり、その結果として子どもたちとの関係が悪化することも考えられます。学校職員人事評価制度では「私たちが自主的に数値で表現した場合はそれも認める」という

#### ②業績評価の目標設定について

「自己目標を立てる、しかも絶対評価で評価される」ということを聞けば、「簡単な目標を設定すればいい？」と思ってしまう。業績評価の目標設定に関わって、「期首面談」というのがあります。要領には次のような一文があります。

自己目標を追加又は変更したほうがよいと判断される場合（自ら気づいた場合又は第一次評価者からの助言により行うとした場合）には、評価期間の期首と同様の手順で自己目標の追加又は変更を行うことができます。

要領ではさらに、「第一次評価者（一般的には教頭）と面談を行い、学校の教育目標や経営方針、重点などとそれまでの自己の取り組みを踏まえて、今後取り組むべき方向や内容について十分話し合い、目標達成に向けての取組方法や具体的なプロセス等の手立てを組み込んだものとする」ことが大切」とあるように、面談を通じた理解と納得が重要になります。

一人一人の先生方が困らないよう、分會が「困っている人はいないか」と注視することが何よりも大事です。

# 土曜授業に伴う「勤務の割り振り変更」について

今年度から、稚内市と中頓別町で土曜授業が行われています。教職員の勤務については「勤務の割り振り変更」が可能です。関係法令やこれまでの交渉から引用し、まとめますので参考にしてください！

## 基本的な考え方として

### 週休日の振替等は、1日又は4時間の場合のみ可能

(北海道学校職員の勤務時間、休暇等に関する条例第6条)

### 土曜授業の振替は長期休業で取ることが可能です。

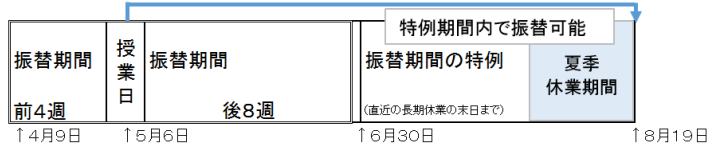
平成26年3月3日道教委通知「北海道学校職員の週休日等の振替等に関する振替期間の特例について」に示されています。

#### パターン1

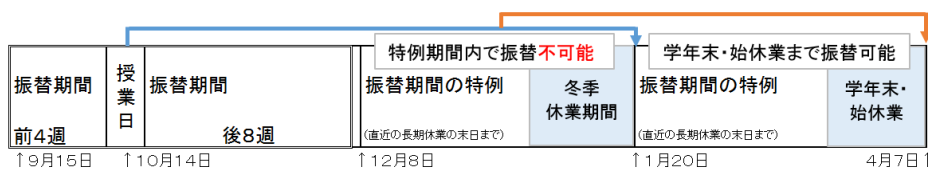
### 土曜授業を「4時間」の勤務日とした。あるいは「1日勤務」とした。

「前4週後8週」の期間または、直近の長期休業へ振替可能

休業日の授業を長期休業中に振り替えるイメージ(夏季休業末日まで延長)



休業日の授業を長期休業中に振り替えるイメージ(学年末・始休業まで延長)



### パターン2 2回の土曜授業(それぞれ「4時間勤務」)を1日に振り替えたい。

この場合は認められていません。

→道教組・高教組の「定員・予算交渉」で指摘をしていますが、「国の状況からみて現行以上の措置はできない」という回答に留まっています。

学び愛フェスタを終えて...  
「また学ぼう」から、さらなる教育運動を!

◆「忙しさ」を理由に、目の前のことだけ  
宗谷教組では、昨年秋から「子どもたちの『学び』を考える取り組み」を続けてきました。十二月に稚内支部が取り組んだアンケートや、二月のシンポジウムを通して、少しずつ考えを広めてきました。先日開催した学び愛フェスタは、全体講演や講座で教育について考え合う大きな節目となりました。

でいっぱいはいっぱいの自分に気づかれました。「宗谷の教育」の大切さ、すばらしさを忘れかけていたと思います。しかし確実に自分の根底に根付いている「子ども観」や「教育についての想い」はこの宗谷で先輩の先生方、地域父母の方々、そして子どもたちから学ばせていただいたものばかりです。これからも広い視野で学び続けていきたいと思います。学んだことをもう一度整理して引き継いでい



きたいと思います。(全体講演感想)

また、今年は一フェスタの後でまた学びたい!という声がたくさん聞こえてきました。

◆現在進行中の生きた実践という、とても貴重なお話でした。どんな子ども、集団にするか、めざす姿をもち、見通しをもって進めること、学年間で話し合って共通理解をすることの大切さが本当によくわかりました。手書きの文字の持つ力が感じられました。この実践の続きがぜひ聞きたいです。(高学年講座感想より)  
◆今日、聞いたことは現場の教育の方々が実際にどうしてきたか、どういった方法をとるべきものなのかを知ることができてよかったです。僕は非常勤なので、学級に深く関わっていく機会が少ないですが、日常生活、授業の中で考え、皆さんの先輩方のお話をもっと聞く機会を大切にしていきたいです。(中学校授業づくりの講座感想より)

宗谷教組として、こうした声にどう応えるかを真剣に考えていきます。民主的学校づくりという営みを守り、継承・発展させる取り組みを共に考え合いまししょう。

# 「宗谷の教育」について学ぼう! 組合づくり勉強会

『宗谷の教育』の昔のコトを聞いてみたい」「私たちは組合づくりをどうしたらいいのか」——こうした日々の悩みを、大先輩の先生のトークセッションから学びませんか?  
「宗谷の教育って素敵だと思う」「組合って大事だ」と日頃から思っているみなさんのご参加をお待ちしています。

日時 6月4日(土) 11:30~14:00  
場所 宗谷教育会館  
講師 柳 憲一さん(初代・宗谷教組副委員長)  
加藤 良平さん(現役時代は各支部執行部を歴任)  
申し込みは、各支部を通して宗谷教組本部まで

臨時教職員部の教採学習会、今年は20名近くの参加があります。今年から、教育実践レポートを読み合う時間を設けています。ただ読み合うだけではなく、実践のポイントなどを話し合う時間もとっています。

「意見を聞き合うのが楽しい」という声がある一方で、「自分は聞く方が好き」とか「話をするのが実は苦手で…」という声も出てきます。そうした声も受け止めながら、毎週学習をしています。

学び愛フェスタに寄せられた先生方の声には「フェスタだけじゃなく学びたい」というものもありました。組合として教育実践を学ぶことの意義を教採学習会やフェスタの声からも感じます。目の前の子どもたちのために何ができるかみんな考え、運動にしていきたいところです。